

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400137		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム万葉堀米の里は東部佐野線堀米駅のすぐ隣にあり、交通の便がよい。住宅地に隣接しており、地域の自治会は米寿会、女性会、育成会など活動がさかんであり、交流の機会もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、グループホーム、小規模多機能ホームなど11事業所を運営しており、各部署の連携をとりながら、地域に根付いた事業所として利用者の生活をトータルサポートできる体制・環境づくりを目指している。「質の高いサービスとは、職員の質であり人材育成が重要」との観点から職員教育にも力を入れており、外部研修への参加促進や内部研修が充実している。建物は高齢者の安全な生活に配慮した工夫が随所に見られるなど、環境設備を兼ね備えたこだわりの造りとなっている。利用者の活動として、くもん学習療法の実施や日本一の筆の生産量を誇る「筆の都」広島県熊野町で開催される書画展に参加し、表彰状をもらうなど楽しみごとにもなっている。職員は、生活の場であることを念頭に、笑顔で明るい雰囲気作りを大切にしており、本人と家族の思いや希望に寄り添った支援が提供できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念である感動満足を共有している。月1回開催する全体会議の場でも全員で復唱し実践につなげている。	職員は、法人理念である「感動満足」を念頭に、良いサービスの提供、プロとして心をこめて行動し、笑顔を決やさず、一人ひとりの生活や想いを大切に、感動満足を繋がる支援を考えている。管理者と職員は、折に触れ理念に立ち返り共有し、実践につなげている。	法人理念である「感動満足」を、日々支援している言動をより具体化した表現にするなど、当事業所ならではのサービスに繋がる独自の理念や目標作りの検討等、今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は駅のすぐ近くで住宅地にある。運営推進会議でも地域の為にお役に立ちたいと提案している。	法人が町会の賛助会員となっており、大きな地域活動へは法人全体で参加している。法人行事の「万葉フェスティバル」には地域の方々を招待する他、近隣保育園の誕生会や敬老会への参加・地域への広報誌の配布など、積極的に交流の機会作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会がなく出来ていない。認知症サポーター養成講座の研修を受講したので、開催の場があれば実施したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員の方からいただいたご意見は次の会議で生かすようにしている。	年6回、併設の小規模多機能ホームと合同で開催している。利用者・家族の代表、地域住民代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加している。活動・研修報告の他、情報・意見交換をしている。また、年2回は昼食会を兼ねて開催し、食事を一緒に摂り、日頃の様子を知ってもらい機会を取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連携をとっている。	運営推進会議の報告のほか、認定調査や施設利用希望者の紹介、各種手続き等必要に応じ連絡を取っている。職員が認知症サポーターのキャラバンメイト講習を受講しており、今後は認知症サポーター養成講座への協力も考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要以上のケアをしなければいけない場合、身体拘束になっていないか職員で話し合いをしている。委員会でも不適切なケアについての事例検討や、全体会議の場で勉強会も行っている。	法人に身体拘束委員会があり、内外研修への参加を促進している。職員は身体拘束にあたる行為をよく理解しており、言葉かけにも気を配り、自分に置き換えて考え支援している。安全面から特別な配慮が必要な利用者については、職員間で話し合いを重ね、アイデアを出し合い支援の方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お客様への対応はもちろん言葉使いでも失礼のないよう配慮している。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等については活用する機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や利用申し込みの際にも施設に関する説明を行っている。契約時には契約書を用いて再度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。	運営推進会議のほか、電話連絡や面会時など、各家族と月1回程度は話す機会を設けている。出された意見は検討し運営に反映させている。利用者の生活や支援についての意見は上がるが、運営に関する意見はあまり上がらない現状がある。	運営に関する意見はなかなか得がたいが、環境設備や行事など具体的な内容についての問いかけや、出しやすいような声かけの工夫、話しやすい雰囲気作りなど、意見や要望が出せるような検討や工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員全員が集まり会議を行っている。そこで出た意見は同じく月1回行うリーダー会議で上司に報告している。	行事や外出の企画、備品の購入など、運営についての様々な提案や意見が言いやすい関係ができており、出された意見や要望は検討し取り入れ支援に活かしている。日常の会話のほか、管理者と職員が1対1で話す機会が日常的に持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施しており、自己評価を行う事で振り返りができる。上司はそれを元に評価を行い、職員のモチベーションが向上するよう考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や就業年数に応じた社内研修も行っており、スキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加の際など交流を持っている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたってはお客様本人とお会いして話をしている。ご家族様から日常生活での情報を得て、出来るだけ早く施設での生活に慣れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたってはご家族様の状況やお客様本人との関係性など出来るだけ詳しくお聞きしている。入居後も不安のないよう日常の様子などお伝えし、ご家族のご意向をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の他事業所と連携を取り、必要がある場合は他のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様を尊重し共に暮らすというグループホームでの生活が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にいらした際には日々の様子等お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中でよく話をされる場所にお連れした事がある。	毎月の請求書送付時に法人広報誌「万葉集」や事業所広報紙「万葉プラザNEWS」を同封し、毎月の生活の様子を家族に伝えている。家族や友人宛の暑中見舞いの支援・郵送や、地域の祭りなど日頃の会話中にあがる馴染みの行事への外出支援、鉄道会社勤務だった方には馴染みの電車での外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	66歳～95歳までの年齢の方が入居されており認知症の症状も様々である。それぞれのお客様が日常生活の中でさり気なく関わっている場面が多い。意識してではなく当たり前になっている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所するとほとんど連絡をとらなくなってしまう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様が日々発する言葉や行動等から思いをくみ取り、意向の把握に努めている。	起床時の表情から体調を察したり、就寝前の満足そうな表情や不満そうな表情からその日一日の様子を推し量り、日頃の関わりの中の言動から思いをくみ取り、寄り添い意向の把握に努めている。また、把握した意向や情報は職員間で共有し、利用者の希望に添うような支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は生活歴や家族構成などできるだけ詳しくうかがっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ない事を見極め、過剰な支援をせずお客様が混乱なく生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームは日常生活の場なので、生活に即した介護計画を作成している。お客様の生活の質を向上させる為大切だと思う事や、ご家族様のご意向を目標にしている。	毎月の職員会議にて、利用者・家族、主治医などの意見を取り入れながら、全利用者の話し合いを行っている。現状に即した介護計画を、管理者の介護計画作成担当者が作成している。毎月モニタリングを行い、年1回見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな変化や気づき、訴えなど記録に記入している。モニタリングの際も参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に臨機応変な対応を心掛けている。変化のある事をするとお客様の新しい一面が見られる事もある。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園との交流を行っている。地域資源を広く捉え活用したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員が定期的に通院している。必要に応じて主治医に経過を伝えたり指示を仰いだりしている。	契約時に往診医へ変更を希望された方は、往診を依頼している。以前からのかかりつけ医を受診している方は、家族へ受診の付き添いをお願いしている。家族・主治医とは、口頭でのほか、手紙やノートを通し、日頃の様子や服薬・受診時の報告等、情報を共有し、適切な支援ができるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断が必要な場合は小規模の看護師に伝える。人工透析を行っているお客様の場合は、連絡帳を使用し連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に備え病院と提携している。入院の際はご家族や病院関係者と連携を図り、施設での様子や退院後の状態把握など情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化が見られた場合は早い段階でご家族様と話し合いを行っている。ご希望があれば看取りも行う。	契約時に、急変時の対応についての希望を確認している。終末期のあり方については、契約時と希望が変わる場合もあるので、一つの目安として、食事が摂れなくなった時点で家族の意思の再確認を行なっている。延命や医療的なケアを希望する場合には、医療的ケアへの対応可能な同法人施設を紹介することもある。看取りの事例もあり、家族・主治医と相談・連携をとりながら、終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎的な対応は出来ている。判断が困難な場合は管理者に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。個々のお客様の避難方法について職員で話し合いを行っている。	年2回、併設の小規模多機能ホームと合同で、消防署や業者の立会いの元訓練をしている。避難訓練・消火設備の取り扱い方法の確認などを行っている。2階のため、車椅子利用者の階段での避難方法や夜間の対応について職員で話し合っている。避難経路の階段幅も広く、段差が低く設定されるなど、移動に安全な工夫がされている。	夜間の対応について、実際の動きなどを確認するためにも夜間想定訓練を取り入れることに期待したい。また、消防団との協力体制は築かれているが、更なる備えとして、団員や地域住民の訓練参加を呼びかけ、より実践に即した検討や体制整備に期待したい。

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりに対し敬う気持ち、責任感を持って対応しており、やさしさも忘れないようにしている。	利用前の生活歴を考慮し、利用者一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。トイレへの声かけもプライバシーに配慮している。職員は気配り目配りをし、一人ひとりの利用者を尊重し優しさを持って接し、信頼関係を築くよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様と会話する場合は、お客様からたくさん話をさせていただくような話題や雰囲気作りに努めている。お客様が発する言葉の中には思いがたくさん込められているので聞き逃さないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるがそれぞれのお客様のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理美容師が来て下さるので、ご希望があればパーマやカラーも出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は一緒に摂っている。月に1~2回程度外食や出前、調理等行っており、その際はお客様にリクエストしていただく事もある。	献立・調理は委託食を利用している。昼食時は利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、個々のペースに配慮しながらゆったりと食事をしている。時折、揚げたての天ぷらやお寿司など普段食べられないメニューを提供したり、おやつ作りを取り入れ調理も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物は数種類用意しており、好みの物が提供出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ないお客様に関しては食後の口腔ケアや義歯洗浄など職員が行っている。往診に来て下さる歯科医院もある。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中オムツを使用しているお客様はいない。排泄に関しても出来る事はやっていたり出来ない部分を支援する事で排泄の自立に繋げている。	排泄パターンを把握し、時間を見計らっての声かけや、利用者の仕草や様子から察しトイレへ誘導している。3ヶ所あるトイレは広さや手すりの位置が配慮されている。日中はトイレでの排泄の自立を支援している。夜間はおむつを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず、多めの水分やオリゴ糖を摂取する事で自然な排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めていない。お客様の要望でいつでも入浴出来る。入浴剤等も用意している。	週2～3回、1対1で入浴介助を行い、希望に合わせて同性介助での支援もしている。入浴日や時間帯は特に決めず、個々の希望や体調を考慮し入浴している。入浴剤の使用の他、ゆず湯や菖蒲湯など季節や入浴が楽しめる工夫をしている。機械浴も完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットや寝具は施設のものであるが、必要に応じてベットパットや好みの寝具を持参しているお客様もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員が管理している。薬に関する説明書もいつでも閲覧できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多方面から情報を得て、お客様の意欲が高まるような支援が出来るよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が好きなお客様はご家族様が連れて行って下さる。月に1回くらいは全員で外出する機会をもとと考えている。	アウトレットや外食など希望の場所へ家族と外出している。桜や梅の季節には弁当持参で地域の名所や公園への花見や、「さの秀郷まつり」で行われる流鏝馬の見学へ出掛けるなど、季節に合わせて毎月外出の機会を設けるよう努めている。また、体調や天候に合わせて近隣を散歩している。	

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理している。外出等でお金を使うような場合、お客様本人に支払をやっていただく場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年はそれぞれご家族に暑中見舞いを書いていただいた。職員が手伝って娘様と文通しているお客様もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いベランダから日中は日差しが入り、暖かく明るい作りになっている。対面キッチンになっておりお客様の様子を見ながら作業が出来る。	リビングは大きな窓から日が差しこみ、明るく、金魚や観葉植物、利用者の作品が飾られている。2階のためベランダからの眺めもよく、西側の窓からは隣接する駅のホームが見下ろせるが、防音窓の使用で室内は静かである。手すりやコーナー壁のカバーなど安全に配慮された設備が整っている。加湿器の設置や適切な空調管理で、居心地のよい空間となっている。掃除は、毎日職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で皆様のご要望に沿うのは難しいが、心身の状態を配慮し出来るだけ居心地のいい場所になるよう常に考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はお客様とご家族が自由に使いやすいようにしていただいている。ベッドの位置なども特に決まっていない。	筆筒や椅子などの家具、衣服や日用品、アルバムなどの思い出の品、家族の写真や位牌など持ち込みは自由である。壁には、誕生会の写真や作品などが飾られている。洗面台・エアコン・介護用電動ベッド・筆筒・カーテンは備え付けである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置など安全に配慮した作りになっている。トイレは3箇所ありお客様はそれぞれご自分で使いやすい所を使用している。		